2025 年度　第２回森と水の源流館　授業づくりセミナー　概要報告

奈良教育大学　中澤　静男

◇開催日時　　2025 年 7 月 19 日（土）10 時～12 時 30 分

◇開催方法　　ＺＯＯＭによるオンラインセミナー

◇参加者　　加藤（川上村水源地課）、島（福岡市立七隈小）、西原（宇和島市立遊子小学校）、
吉田（奈良県立磯城野高）、中谷（橋本市立高野口小）
森と水の源流館：尾上・古山・木村
奈良教育大学：河野・中澤、

◇内容

１．信太ってどんなところ　高野口小学校中谷先生

フィールドワークで信太の魅力を見つけよう　森、滝、人が優しい、神様を大切にし続けてきた地域
さが谷水の水質検査　COD パックテスト　水がきれい！

・信太の豊かな自然を残しながら、どうやって人を増やしていくかがポイント
・私たちには言葉を選んで伝えることができる
・人間以外の立場に立って考えてみよう

【川上村ダムづくり説明会ロールプレイ】　道徳：中谷先生

前時の子どもたち：全員がダム建設に反対
どちらの立場でも意見が言えそうな児童にダム建設賛成派の役割を割り当てる
リールプレイ中の思いに着目するよう指導する。ルール設定をする

場面設定　・村は人がへってきている。
・伊勢湾台風では、あちこちに被害が出て、多くの人が苦しんだ。
・災害を減らすダムは、地形の条件的に、ここの場所しかない。
・工事の人が「ダムを作りたいわけ」を説明し、みんなに納得してもらいにきた。
・村人は「それを聞いてどう思うか」をこたえる「村の集会」

→　関係人口を増やすことの大切さに気付く

→　20 年間の話し合いの後で、川上宣言がつくられた　その言葉の重さを考える

２．農業クラブ活動　専門知識を生かした地域の課題を解決する　磯城野高校農業クラブ

・奈良県立磯城野高等学校にいる野生生物の数　７８６
・奈良県には自然史博物館も生物多様性センターもない。生き物に関する情報を集約するところがない。

→　ミニ生物多様性センターをつくる

実践①野生生物目録の完成
奈良県レッドリスト記載種：28 種、奈良県野生生物目録未記載種：27 種

実践②バタフライガーデン
高齢者の健康増進、障がい者の社会参加
地域ケア推進会議を設置　　よく来る蝶の図鑑も作成

実践③田んぼの水族館を校内に常設

実践④生き物調べサポーター（生き物調べの手伝い）

実践⑤しきの生き物観察会の開催

実践⑥いろいろなところでの発表　多くの方々よりアドバイスをいただく　林野庁長官賞を受賞
実践⑦様々な研究
・今後の予定：ネイチャーポジティブ
・生徒たちの変容
自然を見る目が変わる、課題を見つける力が育つ、社会の一員という自覚が育つ
学習意欲が高まる。日々の学習・生活を大事にする。

３．小学校におけるＥＳＤ実践の意義と可能性　宇和島市立遊子小学校　西原先生
様々な学びが１つになっていく面白さを感じながら
遊子小学校：ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成
（１）遊子の防災大作戦　一年間の核となる学習をしっかり考えることが大切
避難路に関する学習　コロナの間に避難路がつくられた
地域の人たちが頑張ってくれた　　イエローフラッグ作り
防災マップ作り「第２０回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」文部科学大臣賞受賞
他教科との関連　国語科・算数科・理科
地域新聞づくり　　共助につながると知った
防災学習　暗いイメージ　→　いつか来るかも（暗い影）　から　いつきてもなんとかなる　へ
年度初めに計画をつくることで、単発に終わらせるのではなく、学びを重層的に
事前復興教育プログラム　５時間　　防災に対する思考の芽生え
→　平和学習との共通点（戦前責任　火種になりうる火種を育ててしまっている）
（２）海の学習（２５時間）
養殖博士になろう　海も山もいろいろな環境を大切にしないといけないことに気が付いた
おさかな教室
ＥＭせっけんづくり、鉄炭団子づくり（海をきれいにするために）
海洋ごみをテーマとした学習　　清掃活動を実際にして感じたこと

４．水の恵み　川上村に学ぶ持続可能な水の流し方　福岡市立七隈小学校　島先生
おにぎりパーティーで水の恵みを実感する
水源地の村・川上村の責任性を学ぶ　川上宣言のもときれいな水を下流に流す取り組み
⇔地元の富雄川の現状把握
奈良県環境政策課発行のパンフレットから水質汚濁の原因と対策を調べる
○自分たちにできることを考える
「給食の食べ残しをしません！」←　授業者が撮影した給食食べ残し画像を見せる
「本当にできるのか？」
○再考する
・食べ残しはしない　11 名
・汚くなった水はティッシュにしみこませて捨て、流さない　　８名
・お米のとぎ汁は庭木にまく　５名
・シャンプーやリンスは１回分だけ使うようにする　３名
○考えたことを実践する　１週間のチャレンジ期間